

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価（3月28日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1) 単位制の利点をいかした年次進行制の教育課程に基づき、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育活動を展開する。</p> <p>(2) 学習意欲を高め、自ら考え、表現する力を育む。</p> <p>(3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力の育成を図る。</p>	<p>(1) 新しい教育課程の理念を踏まえ、授業の量的確保を前提とした「単位制の利点」との整合性を図る教科指導体制を実現する。</p> <p>(2) ICT機器等を活用することで、生徒が主体的に学べる環境を構築し、わかりやすい授業を実現する。</p> <p>(3) 「わかる授業」を追求し、「何ができるようになるのか」を明確に示した教科指導を展開する。加えて、外部教材を導入することで、基礎学力の更なる定着を図る。</p>	<p>(1) 本校生徒に対応した新しい教育課程の理念に基づき、主体的・意欲的な姿勢で授業に向き合う態度を育成するための授業改善に取り組む。</p> <p>(2) 生徒の学習意欲を高め、「わかる授業」を実現するために、ICT機器やGoogle classroomをどう活用するか、組織的に研究を進める。</p> <p>(3) 組織的授業改善に積極的に取組むため、教員間の情報共有を進め、「よりわかる授業」「何ができるようになるか」を明確化した。また、1,2年次に「マナトレ」を実施し、更なる基礎学力の定着を図る。</p>	<p>(1) 新しい教育課程の理念に基づく教育活動を展開し、主体的・意欲的な姿勢で授業に向き合う態度を育成できたか。(生徒による授業評価、進路状況等)</p> <p>(2) ICT機器等を効果的に活用する取組みができたか。また、それにより生徒の学習意欲を高めることができたか。(生徒による授業評価等)</p> <p>(3) 各教科の授業改善の取組の結果、生徒の学習への姿勢が改善されたか。また、できるようになったと実感する生徒の割合が増えたか。(生徒による授業評価、生徒の状況観察、基礎力診断テストの結果)</p>	<p>(1) 生徒による授業評価で、学習の中に「考えを広める機会がある」「考えをまとめた方法を考えている場面がある」と答えた生徒の割合が増えた。</p> <p>(2) 全教員でICT機器活用の研修を行い、授業への利活用を研究することができた。また、授業の振り返りにICT機器を用いるなどの取組を行うことができた。</p> <p>(3) 生徒による授業評価で、「自分の考えを広めることができた」「自分の考えをまとめた方法を考えている」と答えた生徒の割合が増えた。</p>	<p>(1) 増えたとはいえ、生徒自身が「できるようになった」と実感させること、到達すべき具体的目標を持たせることが必要である。</p> <p>(2) ICT機器等をさらに活用するためには、生徒の規範意識を育成し、授業規律を確立する必要がある。また、機器利活用に関する技術や知識を教員相互で共有する取組を深めていく必要がある。</p> <p>(3) 基礎的・基本的知識が十分に身に付いていなくても、「できるようになった」と実感させるような指導方法を研究する必要がある。また、成功事例を教員間で共有するための情報交換の機会を増やしていく必要がある。</p>	<p>・わかる授業は生徒の学習意欲を高め、さらには生活の安定につながるため、教員には頑張ってもらいたい。</p> <p>・単位制の利点を活かした教育課程の実施やICT機器等の利用に向けて日々努力しているのが理解できた。</p> <p>・マナトレの活用により学び直し、基礎固めがなされている点が大変良い。今までなんとなくごまかしていた知識を正しく身に付けられるというところは自信につながりこれからの学習に大きく影響すると思われる。</p> <p>・生徒による授業評価の結果が全教科7月よりも12月の方が高評価になっていて教員の努力が窺われる。</p>	<p>(1) 生徒による授業評価では、前期よりも後期の結果が全体的に全ての項目で向上した。さらにできるようになったと実感させたい。</p> <p>(2) プロジェクト設置教室の数を増やし、授業での利活用の機会が増加した。一人一台端末の活用が少数の科目にとどまった。</p> <p>(3) 確かな学力育成の取り組みの一つとしてマナトレを続けてきたが、3年間取り組んだ生徒の声で「基礎力が上がった」と感じることができた」と答えた生徒が多かった。</p>	<p>(1) 本時の目標を授業開始に明確にし、授業後に振り返りで達成したかを確認するなどの工夫が必要である。</p> <p>(2) 一人一台端末の利活用の機会を増やすために授業実践研修等を行い、わかる授業の一助とする。</p> <p>(3) マナトレを継続しながら、授業内での取り組みだけでなく、LHR等の時間に実施するなど取り組み時間の確保に努める。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>(1) 生徒の規範意識を育成し、社会や集団の一員であるという自覚を持たせる。</p> <p>(2) 学校行事等への積極的な参加を通し、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>(3) 教育相談・支援体制の整備に努め、生徒一人ひとりの豊かな学校生活を支援する。</p>	<p>(1) 期待される行動を取ろうとしたり、マナーを守ろうとしたりする感性を醸成するとともに、他者を思いやり、違いを認める心や態度を育む。</p> <p>(2) 学校行事や日頃の活動を通して、規範意識を身に付けさせながら、集団の一員としての責任感を育成する。</p> <p>(3) 生徒の発達に応じた支援が行えるよう、体制の整備を行う。</p>	<p>(1) 「授業規律」「生徒心得」等のルールやマナーを守れるよう、適切な指導、支援を行う。また、挨拶を励行する。</p> <p>(2) 感染対策を踏まえ、学校行事や生徒会、部活動・同好会などの活動を通して、生徒一人ひとりが個々の役割を自覚し、協力して運営する体制づくりを行う。</p> <p>(3) 担任、年次、保健室、SC等で細目に連絡を取り、課題を抱える生徒の情報を共有し適切な対応に繋げる。職員全体での情報共有を図るために、生徒情報共有会を実施する。</p>	<p>(1) 「授業規律」等のルールを守り、挨拶ができていないか。他者を思いやる行動が取れているか。欠席数、遅刻数、指導件数は減っているか。</p> <p>(2) 生徒が様々な活動を通して、個々の役割を自覚し、協力して運営する体制づくりを行うことができたか。(生徒の取組状況、アンケート・振り返りなど)</p> <p>(3) 課題を抱える生徒に対して、適切な支援ができたか。生徒情報共有会を実施できたか。</p>	<p>(1) 欠席数、遅刻数、指導件数ともに昨年に比べ増加し「授業規律」等のルールを守れない生徒が増えている。</p> <p>(2) 「体育祭」では、感染対策を徹底し、生徒が主体的に運営できる協力体制を整えた。「文化祭」は校内公開のみであったが、クラス企画や部活動等の発表を行うことができた。多くの生徒が達成感を得ることができた。</p> <p>(3) 年度当初に生徒情報共有会を実施し、共通認識を持って生徒の支援に当たった。SCを利用する生徒も多く、各所と情報を共有しながら、適切な支援を考えた。</p>	<p>(1) 「授業規律」等のルールを守れるよう、職員が一丸となって、挨拶励行や適切な声掛け指導を続け、欠席数、遅刻数の減少に繋げる。</p> <p>(2) 「体育祭」では、熱中症対策が大切であり、余裕をもった準備等が必要である。「文化祭」では、飲食が可能になった場合、未経験の生徒・職員が多いので、準備等を徹底する必要がある。</p> <p>(3) スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健室、年次で情報を細目に共有し、外部との連携も考えながら、課題を抱える生徒への適切な支援を考えていく。</p>	<p>・欠席数や遅刻数の増加は教員のせいだけでなく、家庭環境やコロナ明けの影響があるのではないかと根気よく指導して頂きたい。</p> <p>・ルールを守れない生徒が増えた要因が気になる。</p> <p>・今年度は髪型や服装について寛容すぎたように見えた。代々教員が大切にしてきたことを守っていくべきだと感じた。</p> <p>・自転車通学の際の自転車の乗り方が相変わらず悪い。</p>	<p>(1) コロナによる影響のせいか、3年次生を中心に欠席、遅刻数が増加した。「授業規律」等のルールやマスク着用のマナーを守れない生徒も増えた。</p> <p>(2) 「体育祭」では、生徒が主体的に運営できる協力体制を整えることができた。また、熱中症対策で、前日の午後を放課にした。「文化祭」においては、コロナ禍から通常に戻ってくるため、計画的に準備する。</p>	<p>(1) コロナ禍で徹底しづらかった授業規律等のルールを教員が再確認し、職員一丸となって指導を徹底していく。</p> <p>(2) 「体育祭」においては、熱中症対策を踏まえた計画を考える。「文化祭」においては、コロナ禍から通常に戻ってくるため、計画的に準備する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1)生徒が自ら将来像を描き、主体的に生涯を生きる姿勢を育てる。 (2)生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。	(1)「総合的な探究の時間」の3年間の系統的な授業展開を通じて、変化する社会で生き抜く人材の育成を進め、進路指導へ反映させる。 (2)自分の可能性を信じて目標に向き合う「挑戦力」を育成するとともに、それを支える教員の進路指導力の向上を図る。	(1)-①「総合的な探究の時間」において、分野別説明会、職業理解講座により職業観の深化を促す。 (1)-②基礎力診断テストを実施する。	(1)-①職業観の確立に積極的に取り組めたか。 (1)-②基礎力診断テストに真摯に取り組むことができたか。 (2)-①組織的な進路支援により、進路先未定の生徒数を減少できたか。 (2)-②講習や校外模試等を実施できたか。	(1)-①総合的な探究の時間や学校全体の教育活動を通して、職業観を育成し、自分の進路を具体的に考えるための意識づけができた。 (1)-②基礎力診断テストを1・2年次2回、3年次1回実施し、受検者は1年次95%、2年次88%、3年次91%であった。 (2)-①組織的な進路支援により、進路先未定生徒数は12%に減少した。 (2)-②校外模試等の実施により進路に対する意識と学習意欲を向上できた。	(1)-①生徒が進路目標をしっかりと定められるように、学年に応じた進路行事を計画的に実施していく。 (1)-②基礎力診断テストの受検数の増加に努める。 (2) 生徒一人ひとりが高い目標を持ち、それぞれの特性を生かした目標に向けて、きめ細かな指導を継続する。進路未定者の減少に努める。	・進路を具体的に考えて進路先の未定者数が減少したところに指導の成果が見られる。今後もきめ細かい指導を継続して頂きたい。 ・もう少し生徒一人ひとりに寄り添った指導をして頂きたい。担任や副担任以外にも進路相談できる窓口があると良い。 ・総合的な探究の時間や基礎力診断テストを進路指導に有効に活かしている。	(1)-①総合的な探究の時間などを通して生徒一人ひとりが進路目標をしっかりと定め、決めていくことができた。 (1)-②基礎力診断テストを実施できた。未受験者が受験できる環境を整えたい。 (2)-①組織的な粘り強い取り組みにより、未定者の数を減らすことができた。 (2)-②外部模試や英語技能検定試験など、校内での受験機会を増やした。	(1)-①生徒の進路希望を正しく把握し、希望に応えられる進路指導を行う。 (1)-②テスト実施前の学習課題への取り組み状況と結果活用を促進したい。 (2)組織的な進路支援により、生徒の進路希望決定を支援する。
4	地域等との協働	(1)家庭や地域との連携によりパートナーとして愛され、支持を得られる学校づくりを推進する。	(1)-①生徒に、地域の一員として活動する機会を提供し、自己を発信することに意義を見出させ、自己肯定感・有用感を高める。 (1)-②教育活動についての情報発信の充実を図り、家庭や地域により一層の理解と協力を求める。	(1)-①感染対策を踏まえ、生徒が地域の方々に貢献できる場を提供し、自己を発信することの意義を指導する。 (1)-②Web ページ、メール配信、Twitter 等を通し、情報発信をし、家庭や地域に学校への理解を深めてもらう。	(1)-①生徒が地域に貢献し、自己を発信する場を提供することができたか。地域貢献の大切さを指導できたか。(地域の企画や行事への参加状況等) (1)-② 適時に情報発信をすることができたか。(保護者・学校運営協議委員からの意見等)	(1)-①生徒会本部役員が横内子ども大会・横内フェスタに参加した。横内フェスタでは、リポーターとして運営に協力した。 (1)-②PTA 関連の情報や修学旅行実施に向けての連絡、旅行中の状況をメール、Twitter で配信できた	(1)-①これからも可能な限り地域貢献活動を実施する。 (1)-②メール配信の登録が生徒と保護者で共通であるため、登録数だけで全家庭に連絡できているか不明なため、工夫が必要である。	・横内フェスタに参加するなど生徒会本部役員の活躍が見られた。 ・部活動のボランティア訪問等を再開する予定なので是非参加して頂きたい。	(1)-①生徒会本部役員が横内子ども大会・横内フェスタに参加した。また、神田公民館の七夕祭りにおいて、掲示物を作成し、飾り付けを行った。 (1)-②Twitter などの即時配信ツールで、本校の取り組みをPRできた。	(1)-①これからも可能な限り地域貢献活動を実施し、生徒会等の活動を外部に発信していく。 (1)-②欠席連絡のオンライン化などとの連携を検討していく。
5	学校管理 学校運営	(1)生徒が安全で、安心でき、居心地の良い学校生活を送ることができる、学校づくりに取り組む。 (2)より一層の組織的な学校運営と業務の効率化を図る。 (3)教員のワークライフバランスを推進するために、働き方改革を推進する。	(1)ICT環境の整備を推し進め、コロナ禍においても安心して授業に取り組める教育環境を整える。また、非常時に向けた防災教育、防災用品整備に取り組み、生徒が安心して生活できる環境を確立する。 (2)組織的に職務を遂行し、生徒・保護者・県民から信頼を得られる学校づくりに取り組む。 (3)長期休業期間中に学校閉庁日を設定し、校務の効率化を図る。	(1)ICT委員会と連携し、プロジェクト設置教室の整備を行い、使いやすい利用環境づくりを推進する。また、清掃用具、用品の整備を行い、環境整備を図る。防災用品が非常時に利用しやすい保管場所の確保に努める。 (2)PTA活動等を利用し、生徒・保護者との活動をする中で良好な関係性構築を目指す。 (3)仕事内容の精選、作業効率の向上を図り、職員相互で勤務時間超過を減らす職場環境作りを目指す。	(1)各教室のプロジェクト利用状況が向上したか。教職員向けのアンケートを実施し、効果的な授業、機器利用ができたか。防災用品保管場所が適切な状態であるか。 (2)保護者や地域と連携する学校行事を増やせたかどうか。地域や保護者からの要望に応えられたかどうか。 (3)時間外在校勤務時間がどれくらいであったか。企画会議や職員会議などの諸会議が、勤務時間内に終了できていたか。	(1)プレゼンテーションソフトを利用した授業が増えた。また、Meetを利用したオンライン集会等を複数の行事で実施できた。 (2)PTA 運営委員の方に卒業式に参列していただくなど、コロナ禍ではあるが増やすことができた。 (3)会議は内容を精選し、勤務時間内に終る。年休の取得状況も向上し、休みを取りやすい状況であった。	(1)Meet 接続後の表示がクラスにより異なり、設定方法の研修などが必要である。防災用品は山積みとなっているため、5年度の教室配置の中で置き場所を設定していく。 (2)実施方法を考えながら、公開研究授業などにも参加していただければいいようにしたい。 (3)企画会議は3回ほど勤務時間を超えたが、今後は授業の空き時間を有効利用するなどの工夫をしていく。	・ICTの導入に伴い、授業も特別活動も大きく変化している中、教員同士で協力しながら実施していることがわかった。 ・ICTの活用に関しては近隣の小中学校も問題を抱えているので、連携しながら共に情報共有をしていきたい。 ・コロナ禍で制限されていたことが少しずつ緩和されてきたが、これからは生徒の安全を第一に学校運営をしていって頂きたい。	(1)ICT委員会の機能が上手く働かなかったが、一人一台端末の導入、Classroomや校内Wi-Fiの運用など、スムーズな取組みを行う際には肝心であるため、うまく機能させたい。 (2)コロナ禍前の状態には回復していないが、球技大会等の生徒の活動にPTAから支援していただくなど、コロナ禍前とは異なる新たな連携は実施できた。 (3)業務内容の精選、作業効率向上を意識して取り組むことができた。	(1)ICT関連業務は多岐にわたっており、運用は分担して行い、将来的には委員会は解散し、グループ業務に戻していきたい。 (2)単純にコロナ禍前に戻すのではなく、保護者、地域との連携に必要な行事を確認し力を注ぐ。 (3)Teamsをさらに活用し、グループ内連絡等でも活用を目指していく。